

地域密着型金融への取組み状況

(取組み期間:平成24年4月1日～平成25年3月31日)



地域密着型金融推進に対する基本的取組み

地域密着型金融とは、「金融機関とお客様との間で親密な関係を長く維持することによりお客様に関する情報を蓄積し、この情報を基に貸出金等の金融サービスの提供を行なうことで展開するビジネスモデル」と位置づけられています。

当金庫では、平成15年4月以降、2次4年に亘る「金融再生プログラム」、「金融重点強化プログラム」を着実に遂行し、平成19年4月からは、地域密着型金融を恒久的な取組みと位置付け、地域の情報集積を活用した持続的な事業再生への取組み、地域活性化につながる貸出機能の強化及び、中小企業のライフサイクルに沿った事業支援を進めてまいりました。また、多様なサービスの提供、お客様の利便性の向上、地元社会へのお手伝いを通じて地域との共存共栄を目指してまいりました。

平成24年4月から取組みにおいても、更なるきめ細かい対面営業の展開と地域の各方面との連携強化、会員の皆様との信頼関係の強化、内部体制の整備と金融機能の発揮を推進してまいりました。

今後も引き続き、「地域密着型金融の取組み」を深化させ、更なる地域金融の円滑化、お客様への利便性・満足度の向上、信頼される健全経営の確保等に努めてまいります。

平成24年度の取組み状況を次の通り報告させていただきます。

平成24年度の取組み事項と実績

取組み分野	取組み項目	平成24年度の具体的取組み計画	左記計画に対する平成24年度の実績
1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化	(1)コンサルティング機能の発揮	創業、新規事業支援、事業再生支援、経営支援、営業支援、事業継承への取組みを支援します。	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度の新規事業の創業先に対する融資は、3件(3先)・15百万円、新規業への進出先に対しては、3件(3先)・22百万円の実績でした。 経営改善支援取組み先245先に対して、原則、毎月1回訪問し、経営相談や経営指導を行いました。また、月次損益や改善項目の進捗状況をヒアリングし、計画達成状況を検証することで、フォローアップに努めました。その結果、平成24年度は経営改善支援取組み先のうち債務者区分で8先、信用格付けで40先がランクアップとなりました。
		企業の実態把握と課題を解決するために、専門的な人材やノウハウの不足を補完する中小企業再生支援協議会等の公的支援機関や契約コンサルティング会社、関係機関を活用します。	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業再生支援協議会へ取引先9先について相談案件を持ち込みし、内5先の計画が承認され、他の4先については計画策定中です。 県内中小企業の再生を支援するため、平成25年3月に中小企業基盤整備機構と県内の地域金融機関および富山県信用保証協会などと共に「とやま中小企業再生ファンド」の組成に参加しました。
		財務・事業分野のデューデリ能力を高め、経営課題を共有してお客様が主体的に事業再生や経営改善に取組み出来るように協力します。	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年2月、職員が認定支援機関のためのコンサルティング実践講座に参加し、知識の習得とスキルアップを図りました。 営業店指導を実施し(27回)、営業店新任役席、若手職員の経営改善支援能力のレベルアップを図りました。
	(2)取引企業の技術・ノウハウの発掘と進化、活用策の支援	取引先の固有技術やノウハウを調査し、その能力アップの可能性や活用策を公的支援機関や経営コンサルティング会社等と連携して取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> 高岡商工会議所と連携して、特殊塗装技術を保有する取引先の「経営革新計画」の策定支援を行い、計画の承認を得ることができました。
		取引先の相互支援のために、個別のマッチングを実施します。 また、しんきんビジネスフェア「北陸ビジネス街道2012」、「県西部地区医療機器産業育成協議会」を利用し、マッチング機会を増やします。	<ul style="list-style-type: none"> しんきんビジネスフェア「北陸ビジネス街道2012」には、当金庫取引先を中心に38社が出展し、そのうち13社において他社との商談成果があり、現在も72社と商談中です。 当金庫が事務局である県西部地区医療機器産業育成協議会でのセミナー及び情報交換会を2回開催し、医療機器関連企業と一般製造企業とのマッチングを実施しました。

取組み分野	取組み項目	平成24年度の具体的取組み計画	左記計画に対する平成24年度の実績
1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化	(3)将来の成長可能性を重視した事業の育成と地域の面的再生支援	製造業分野の有力企業(グローバル企業)と当庫取引先企業とのマッチング機会を活用し、受注の拡充と技術の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・当金庫取引先事業所と県東部大手企業への工場見学及びマッチングを実施し、23社、10団体、47名の参加がありました。 ・富山大学、県立大学等と一般企業との研究開発の連携をサポートしました。
		新事業分野や成長産業(医療・介護・次世代自動車・航空機)への取組みを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業分野である、自然エネルギー活用の太陽光発電への融資に積極的に取組み、2先・200百万円の実績がありました。また、成長産業である医療・介護分野への融資にも積極的に取組み、12先 1,200百万円の実績がありました。
2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ、中小企業に適した資金供給手法の徹底	(1)中小企業者の資金調達手法の多様化への対応	大型融資には、シンジケートローン等を活用し、新規取引先や既存取引先の資金調達に対応します。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度のシンジケートローンの取扱いはなかったものの、平成25年3月末現在では、件数で10件、残高は1,103百万円の実績となっており、今後も積極的にシンジケートローンを活用し、大口資金需要に対応していきます。
		中小企業金融円滑化法の期限の到来に備えた出口戦略として、動産・債権譲渡担保融資、ABLや資本制借入金等を活用し、新規融資の促進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度の動産・債権譲渡担保融資の実績は、4件、融資額65百万円となりました。今後も担保余力のない中小企業者への新たな資金調達方法として、動産・債権譲渡担保融資を積極的に活用します。
	(2)地公体や商工団体、関係機関との連携の強化	国や地公体の施策を基に、商工団体と連携して、各種助成や支援策等を取引先へ提案し、その活用を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年11月に、国より中小企業経営力強化支援法に基づく経営革新等支援機関の認定を受けました。これにより、経営改善に取り組む中小企業に対し、経営課題解決に向けた専門家派遣等の提案、信用保証料を一部免除する「経営力強化保証」制度を利用した資金調達の提案が可能となりました。
		地域の関係機関と継続的に意見交換を実施し、個社別の案件や各業界の問題と将来展望を協議し、支援策を検討します。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年4月、8月、11月に中小企業基盤整備機構、高岡市、高岡商工会議所、高岡市商工会と当庫が連携し、各機関が実施している支援案件に懸かる課題、問題点等に関する意見交換会を行いました。
		中部経済産業局・地公体・商工会議所と連携し、補助金を含む各種支援事業を取引先へ提案し、活用を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所、商工会議所、商工会、中小機構、当金庫の5機関による会合を年4回開催し、各種補助金を含む情報交換会を実施しました。 ・国、県、市の補助金申請のサポートを積極的に提案し、サポイン、ものづくり補助金認定書発行枚数45件、創業1件、第二創業2件、新技術・新分野等20件の実績がありました。 ・当金庫取引先企業へ公的機関が実施する各種施策の情報提供を積極的に行いました。

取組み分野	取組み項目	平成24年度の具体的取組み計画	左記計画に対する平成24年度の実績
2. 事業価値を見極め融資手法をはじめ、中小企業に適した資金供給手法の徹底	(3)取引先の問題解決に向けた外部機関の活用と人材育成	地公体・商工会議所・商工会・中小企業再生支援協議会・経営コンサルティング会社と連携して、産学官の取組みや企業再生、技術・ノウハウ改善等に取組みます。	平成24年12月、中小企業の多様で活力ある成長発展の促進のため、富山県新世紀産業機構が行う助成事業「とやま中小企業チャレンジファンド」の設置に、富山県、県内地域金融機関と共に協力しました。また、取引先と同ファンドへの助成申請時には、「意見書」を発行して助成申請の支援を行いました。
		所管部と営業店は公的支援機関や経営コンサルティング会社を実施する取組みに参加し、ノウハウを取得します。	本部職員が北陸財務局主催の「平成24年度地域密着型金融に関するシンポジウム」に参加して、各行庫の取組み事例について理解を深めました。
3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献	(1)多重債務者問題への対応	多重債務者向け相談窓口を設置します。	平成24年度は、多重債務者救済のための再チャレンジ支援融資、1件・7百万円の実績でした。今後も、きめ細かく債務内容を確認しながら案件ごとに個別対応し、問題解決に取り組んでいきます。 多重債務者窓口と「金融円滑化相談窓口」を併設し、住宅ローンの返済条件の変更や多重債務に関する相談などに対応していきます。
		各種ローン商品の内容を見直し、拡充を図ります。	貸金業法の総量規制により、貸金業者からの借入が困難になった方を対象として、資金使途自由なフリーローンを発売し多重債務者問題に対応しました。平成25年3月末現在では408件・442百万円の実績がありました。
	(2)目利き能力と融資対応能力の向上	企業の将来性、技術力を的確に評価できる目利き能力、経営改善へのコンサルティング能力向上など、事業再生・中小零細企業金融の円滑化に対応できる人材の育成に努めます。	全信協の目利き力養成・実践講座、地区協における目利き力強化・養成講座に延べ6名の職員を派遣しました。又、金融円滑化法の期限を迎えるにあたり、全信協の出口戦略対応コンサルティング講座への職員派遣も実施しました。 金庫内での相乗効果を狙い、研修受講者を講師として土曜セミナーの開催や営業店への訪問指導を行いました。
中小企業診断士等国家資格取得を支援するとともに、資格保有者を積極的にノウハウを活用できる部署に登用します。	前年度に引き続き、中小企業診断士サポート講座第3期生3名に対し、資格取得に向けバックアップ中です。 前年度、中小企業診断士資格を取得した職員を融資部企業支援課へ配属し、取引企業の経営改善業務の強化を図っています。		
融資実務の研修を実施し、融資審査能力等の向上を図ります。また、若手職員や女子職員に対し、従前以上に広い分野での知識・能力をつける機会を与えます。	営業店の若手職員に対し、述べ16名、32日間の金庫内融資トレーニー研修を実施し、融資審査能力等の向上を図りました。 融資渉外、融資審査や女性融資業務基礎講座等、派遣研修にも積極的に参加し、職員のレベルアップを図っております。		

取組み分野	取組み項目	平成24年度の具体的取組み計画	左記計画に対する平成24年度の実績
4. その他	(1)法令等遵守の徹底	<p>市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力と対決し、被害を防止するため、取引を含めた一切の関係を遮断して、不当要求には断固拒絶いたします。また、警察や外部専門機関との十分な連携により対応を強化します。</p>	<p>・反社会的勢力の範囲を拡大・明確化しました。反社との取引解約については、常勤役員会で金庫の解約意思を決定後、警察より正式回答を得て、顧問弁護士と綿密な打合せのもと、取引解約交渉を行う体制を整備しました。</p>
		<p>「犯罪収益移転防止法」及び「組織犯罪処罰法」に則り、庫内関連規則である「マネー・ロンダリング防止対策事務取扱要領」等に従って、本人確認、疑わしい取引の届出等を適切に行います。また、「振り込め詐欺救済法」に基づき、被害回復分配金の支払手続を遅延なく行います。</p>	<p>・営業店では、毎日「不正・風評等監視日報」を検証し、疑わしい取引と感知した場合、速やかにコンプライアンス部(以下、統括部署という。)へ報告し、統括部署は「マネー・ロンダリング防止対策事務取扱要領」に基づき、金融庁への届出等を実施しています。また、「振り込め詐欺救済法」に基づき、犯罪利用口座等の理由があると認めるときは、預金等債権の消滅手続を速やかに実施しています。</p>
		<p>営業店への臨店指導を強化し、法令等遵守に関する指示の徹底とその実施状況について事後の検証を行います。</p>	<p>・定期的に本部・営業店のコンプライアンスアシスタント(以下、CAという。)へのコンプライアンスに関するヒアリング、臨店指導およびCAを対象としたレベルアップ研修会を実施し、法令等遵守の指示、徹底を図っています。</p>
	(2)店舗の構造強化と安全性の向上	<p>AEDの設置(2～3カ店)、点字ブロックの設置(3～4カ店)、耐震構造の調査(数カ店)など行います。</p>	<p>・平成24年度は、3カ店にAEDを設置しました。また、職員を対象に心肺蘇生法や自動体外式除細動器の使用法等の救命講習会を実施し、救命資格者60名を全店舗に配置しました。 ・平成24年度は、12カ店に点字ブロックを敷設し、全29店舗中25店舗が点字ブロックの敷設店舗となりました。 ・平成24年度は、4カ店の耐震構造の調査を終えました。</p>
	(3)地域のお客様との関係強化と、意見・要望を業務に反映させる体制強化	<p>役員の営業店担当制を深化させ、会員・親睦会との関係を強化することで、お客様より意見・要望をくみ取る体制を整備します。</p>	<p>・顧客からの要望や情報を入手するため、常務理事以下6名の理事が全店29ヶ店を担当割り、月一回以上取引顧客への訪問を行っております。得られた要望や情報は全役員に逐次報告し情報の共有化と必要な対応をとっております。</p>
		<p>来店客に対するアンケートを実施し、業務施策に反映させます。</p>	<p>・店舗の立地や利便性等に関し、顧客アンケートを実施し業務施策の参考としました。</p>

具体的取組み事例

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化に対する取組み

製造業分野の有力企業(グローバル企業)と当金庫取引先企業とのマッチングをサポート

取引先企業の成長分野への参入機会の創出と、参加企業間での技術提携による取引機会の拡充を図ることを目的に、県東部大手企業への工場見学及び、ビジネスマッチングを実施いたしましたところ、23社、10団体、47名の参加がありました。



「たかしん経済講演会」を実施

講師に北村 森氏(商品ジャーナリスト・元日経トレンディ編集長)をお招きして、「地方発、ヒット商品の条件、売れる・売れないの分岐点」と題して開催いたしましたところ、288名のご参加をいただきました。

しんきんビジネスフェア「北陸ビジネス街道2012」を開催

石川県産業展示館において北陸地区信用金庫協会主催のしんきんビジネスフェア「北陸ビジネス街道2012」が開催されました。当金庫でも地域経済の活性化と、地元企業の事業発展を目的とし、取引先を中心に38社の出展がありました。ビジネスマッチングも実施し、そのうち13社においては他社との商談成果がありました。



2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ、中小企業に適した資金供給手法の徹底に対する取組み

金融相談窓口、多重債務者相談窓口を設置

お客様からの資金繰りや返済に関するご相談に、お客様の状況を十分に把握した上で適切に対応するため「金融相談窓口」と「多重債務者相談窓口」を設置しており、住宅ローンの返済条件の変更や、多重債務の取りまとめ等、相談に対応しています。

「土曜セミナー」「融資審査トレーナー研修」を実施

職員の目利き能力、融資対応能力向上を目的として職員向けの両勉強会を開催しました。「土曜セミナー」は目利き養成講座など毎回土曜日に全8講座を開催いたしました。「融資審査トレーナー研修」は若手融資担当者が融資審査の基本(資金使途・返済財源等)を体得するため、融資部が稟議の場へ参加させ、直接指導を行いました。



3. 地域の情報収積を活用した持続可能な地域経済への貢献に対する取組み



鐘紡町支店にローン相談コーナーを常設

休日にも住宅ローンをはじめ各種ローンの相談がしたいという声にお応えするため、鐘紡町支店にローン相談コーナーを常設し、地域の皆様のニーズにお応えしております。

「おもしろ年金セミナー」及び「年金個別相談会」を開催

講師に社会保険労務士の原 玲子氏をお迎えして「おもしろ年金セミナー」を開催いたしました。難しい年金制度について楽しく、わかりやすく説明していただきました。同時に、「年金個別相談会」も開催し、お客様の年金に関する疑問、老後の生活設計について個別相談にお答えいたしました。



4. その他

高岡市荻布奨学金事業に賛助金

当金庫では1963年(昭和38年)の奨学金の基金創設以来、50年間賛助を続けており、長年の貢献が認められ、高岡市より感謝状をいただきました。同奨学金は市内在住で賛助が必要な高校・高専・大学生を対象にした制度で、これまで延べ1,500人以上の学生を支援しています。



救急資格者 60名を全店舗に配置

お客様の万一来に備え、職員を対象に心配蘇生法や自動対外式除細動器(AED)の使用方法等の救命講習を実施しました。受講した救命資格者60名を全店舗に配置し、お客様に優しい店舗づくりを目指しています。

復興支援ボランティアとして職員10名を派遣

東日本大震災の復興支援ボランティアとして、理事長を団長に職員10名を派遣しました。宮城県南三陸町と岩手県陸前高田市でがれき処理や側溝の泥だし作業などに取り組みました。また、災害ボランティアセンターや仮設住宅の方々とも交流を図りました。今後もさらに参加者を増やし、ボランティア活動を継続したいと考えています。



創業90周年記念事業

高岡信用金庫シンボルマーク、創業90周年記念ロゴマークを制定しました

シンボルマーク・ロゴマークともに職員から原案を募集し、制定しました。

シンボルマークは、桜の花のように美しく咲く地域の皆様、その力となりともに未来へ進んでいくという思いを込めました。ロゴマークは、「90」の中に「g0」を描き、流れるようなブルーの矢印で100周年に向けて歩みを進めていく決意を表現しています。



(高岡信用金庫シンボルマーク)



(創業90周年記念ロゴマーク)



全役職員が一斉清掃をおこないました。

創業90周年記念日の3月16日(土)に全役職員370名が参加し、清掃活動を行いました。

全29店舗周辺を清掃した後、市内10コースに分かれて古城公園まで、歩きながらのゴミ拾いに汗を流しました。

この活動は、今後も創業記念日に継続しておこなっていきます。

高岡ねがいみち駅伝参加

平成25年4月21日(日)に開催された、第1回「高岡ねがいみち駅伝」に当金庫はメイン企業協賛いたしました。また、職員も選手や運営ボランティアとして参加しました。出場チームは若手職員を中心に、支店の有志6チームが出場し、小雨の降るなか力走しました。



日本赤十字社、社会福祉法人富山県社会福祉協議会に寄付いたしました。

「創業90周年記念 全店親睦ゴルフ大会」を開催し、参加者246名の皆様からの募金に、当金庫からの募金をあわせ40万円を日本赤十字社に活動資金として寄付しました。また、3月4日(月)から5月31日(金)まで金利上乘せ定期積金「ステップ90」を発売し、その契約金額の0.02%を当金庫が負担し(福)富山県社会福祉協議会に寄付することとしておりました。当初の予想を上回るご契約をいただき、76万円を地域の社会福祉増進の事業に役立てる「富山県社会福祉事業振興基金」に寄付しました。



「地域密着型金融推進」に係る取組み実績

1. 主要計数の実績

ライフサイクルに応じた支援強化の取組み実績

主要計数項目	平成25年3月末目標	平成25年3月末実績
経営改善支援取組み率(1)	40%	37.5 %
経営改善支援取組み先の再生計画策定率(2)	100%	100%
経営改善支援取組み先のランクアップ率(3)	4%	3.3%
創業・新事業支援融資実績(件数・金額)	20件・100百万円	6件・37百万円

- (1)経営改善支援取組み率(37.5%)
 = 経営改善支援取組み先数(245先) ÷ 正常先除く期初債務者数(654先)
- (2)経営改善支援取組み先の再生計画策定率(100%)
 = 再生計画策定先数(245先) ÷ 経営改善支援取組み先数(245先)
- (3)経営改善支援取組み先のランクアップ率(3.3%)
 = 支援先の債務者区分ランクアップ先数(8先) ÷ 経営改善支援取組み先数(245先)

個人保証・不動産担保に過度に依存しない融資の取組み実績(中小企業に適した資金供給手法の徹底)

主要計数項目	平成25年3月末目標	平成25年3月末実績
動産・債権譲渡担保融資実績(件数・金額)	10件・50百万円	4件・65百万円
財務制限条項活用融資実績(件数・金額)	2件・200百万円	0件・0百万円

2. その他の数値目標と実績

「地域密着型金融推進計画」の期間中に主要計数の取組みのほか、達成すべき業績水準として、以下の目標を設定し努力してまいりました。

項目	平成25年3月末目標	平成25年3月末実績
経営改善支援取組み先数	262先	246先
経営改善支援先の債務者区分ランクアップ先数	10先	8先
経営改善支援先の信用等级付ランクアップ先数	35先	40先
コンサルティング提携企業先数	8先	5先
新規開業支援企業先数	10先	3先
新規分野進出支援企業先数	5先	3先
私募債取扱企業先数	1先	0先
シンジケートローン取扱企業先数	2先	0先